

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	第20回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会
事業主体 (連絡先)	第20回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会実行委員会 駒ヶ根市赤須町20番1号 駒ヶ根市役所 民生部 生活環境課内 (0265-83-2111)
事業区分	(5) 景観保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,989,347円 (うち支援金: 2,013,000円)

事業内容

平成30年に半世紀ぶりに中央アルプスでライチョウの雌個体が発見されたことをきっかけとして、環境省が令和元年度から保護増殖事業を行っており、令和3年度から5年計画で100羽にまで増やす計画となっている。

そこで、地元市村、近隣市町村の住民に、ライチョウ保護増殖事業の内容や中央アルプスの国立公園化に併せた自然環境保護の再認識、ライチョウ保護の重要性について知ってもらうことで、地域愛を深め、地域振興につながるきっかけとするため、本事業を実施した。

10月9日(日) 公開シンポジウム
 10月10日(月) 専門家会議
 10月11日(火) エクスカーション
 会場: (9・10日) 駒ヶ根市文化会館大ホール
 (11日) 中央アルプス駒ヶ岳周辺

事業効果

本イベントには、延べにして地域住民はもとより、県内外から約500名の方の参加があった。

地域住民に対しては、本イベントの開催を通して、県の鳥であるライチョウが中央アルプスで半世紀ぶりに復活したこと、また、環境省を中心に保護増殖事業を実施していること、また、その成果を知ってもらうことにつながった。

また、県内外から訪れていただいた方については、この地域の良さを知ってもらうことができ、知名度の向上につながった。

今後の取り組み

環境省が行う第2期のライチョウ保護増殖事業は、令和6年度まで続く予定であり、中央アルプスに200羽以上のライチョウを生息させることで、レッドリストにおける絶滅危惧ⅠB類からⅡ類へのダウンを目標としている。

本イベントについては本年度限りのものとなるが、このイベントを通じて、日本のライチョウが、人を恐れず、登山道に近い場所に来れば、登山者は容易に観察することができる、身近で親しみやすい鳥であることなどを知ってもらうことが出来た。こうしたことも踏まえ、今後、中央アルプスの新たな観光資源として、より多くの集客と、地域の活性化につなげていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【公開シンポジウム 記念講演の様子】

【目標・ねらい】

- ① ライチョウについて知ってもらう。
- ② 中央アルプスでライチョウが復活していることを知ってもらう。
- ③ 自然環境保護の再認識
- ④ これらを通して地域愛を深める。

※自己評価【 B 】

【理由】
 コロナ禍の影響もあり、参加者数については目標としていた人数に届かなかったが、ライチョウに対する理解と、地域愛の向上に貢献することが出来た。また、県外からの参加者も多く、本地域の知名度向上に貢献できた。